

主 題：変わらぬ神の計画 1

聖書箇所：ローマ人への手紙 11章23-27節

「私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。」（ローマ9：2）、パウロはそのように自分の同胞、同国人であるイスラエル人の不信仰を嘆きました。愛する自分の同胞たちが神に逆らい、この約束の救い主に逆らい続け、そして、永遠の滅びに向かってその様子を見て彼の心は痛みました。そのことは私たちも理解できます。私たちの周りにもたくさんの愛する者たちが、今、まさに永遠の滅びへと向かっています。これは喜ぶことではありません。黙って見ていることのできるものではありません。永遠のさばきがあることを知っている私たちは、パウロと同じようにそのような現状を見て心を痛めます。皆さんもきっとそのような痛みを感じていらっしゃるかと信じます。伝道しても、イエス・キリストの福音を伝えても、人々はこの福音に心を開こうとしないこの現実、このような中で私たちはだんだんと希望を失っていきます。「もう無理ではないか…？何度語っても、何度証をしても、耳を貸そうとしない…」と。パウロはこのような不信仰の同胞の様子を見て、確かに悲しんでいる、嘆いていると言いながらも、彼自身は希望は失っていなかった。そのような状態にあるこの同国人であっても、パウロは彼らの救いに関して希望を失っていません。

では、なぜパウロは、そのように願っているような結果が出なくても希望を持ち続けることができたのでしょうか？なぜ、自分の思う通りに彼らが心を開いてくれないという現実の中であって、彼自身は希望を持ち続けることができたのでしょうか？答えは簡単です。パウロは神のみことばを信じたのです。彼は神の約束に立ったのです。

☆パウロの希望

A. 備えられた救い 23-24節

パウロはすでに、私たちに教えたように、神が自分の同胞であるイスラエルの民に素晴らしい計画を持っておられることを知っていました。そこを見たのです。その現状ではなく神の約束に立ったのです。そのことは私たちにとってもとても大切なことです。皆さん、希望を失っていませんか？愛する者の救いだけでなく、信仰生活において希望を失っていませんか？私たちに必要なことは、神のみことばに立つこと、神の約束に立つことです。なぜなら、神の約束は決して変わることがないからです。パウロは先ず、23-24節で「備えられた救い」について話します。彼は、神は異邦人だけでなくイスラエル人のために、すなわち、すべての人々のために救いを備えられたということを知っています。

1. イスラエルの救い 23節

23節には「彼らであっても、もし不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼らを再びつぎ合わすことができるのです。」とあります。このイスラエルを再び神の祝福の中に、神の民としてつなぐことができる、「接ぎ木」をすることができるということです。ただ、ここには条件がありました。23節の初めに「不信仰を続けなければ」とあります。これが条件です。もし、そのような条件にかなうなら神は彼らを再び祝福するというのです。どのような選択をするのか、それが大切です。

1) 誤った選択：不信仰

悲しいことに、イスラエル人たちは誤った選択を繰り返して来ました。それは、パウロのことばを借りるなら「不信仰」です。そして、この不信仰は主イエス・キリストに対するものです。イスラエル人たちはこのイエスが神であり救世主であるということ信じなかったのです。では、イエスご自身はそのことを明らかにされなかったのでしょうか？皆さんもご存じの通り、イエスはそのことを明らかにされました。ご自分が神であること、ご自分が救い主であることを人々の前で明らかにされ続けました。

(1) 神であること

・ことばによって＝イエスが神であることはご自身がことばをもって明らかになさいました。ヨハネの福音書10：31-33を見てください。ユダヤ人とのやりとりがこのように記されています。「ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。：32 イエスは彼らに答えられた。「わたしは、父から出た多くの良いわざを、あなたがたに示しました。そのうちのどのわざのために、わたしを石打ちにしようとするのですか。」、イエスが問われたのは、わたしのどの悪いわざが石打ちの刑に値するのですか？どんな悪いことをしたのですか？です。33節「ユダヤ人たちはイエスに答えた。「良いわざのためにあなたがたを石打ちにするのではありません。冒瀆のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです。」、ユダヤ人たちはイエス・キリストの「自分を神とする」という主張を理解しました。イエスがいったい何を言っているのかを理解したのです。そして、彼らは言います。「彼は石打ちに値する。な

ぜなら、神を冒瀆したから、自分を神としたから。」と。ここではっきりしていることは、イエスはご自分が神であることを人々の前で明らかにされたことです。

・行ないによって＝また、ことばだけではなく、実際に、行ないをもって自分が神であることを明らかにして来られました。マタイの福音書9章に一人の中風の人の話が記されています。病のいやしであるのに、イエスが言われたことは「その人の罪を赦す」ということでした。9：6「人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。」こう言って、それから中風の人に、「起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。」と言われた。」。ご自分には人の「罪を赦す権威」があることを明らかにされたのです。人々は人の罪を赦すことができるのは神だけだと知っていました。イエスはその権威が自分にあることを人々に知らせることによって、ご自分が神であることを明らかにされたのです。また、イエスとピリポの会話がヨハネの福音書14章に記されています。14：9－11「イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください。』と言うのですか。：10 わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話しているものではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。：11 わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい。」、「わざによって」わたしを信じるようにと言われました。なぜなら、イエスのわざを見ることによって、イエスがだれか？イエスが神であることが明らかになったからです。

ユダヤ人たちがイエスを殺そうとした理由は、イエスご自身が「自分は神である」と主張していたこと、そして、人々はそのことを理解したからです。

(2) 救い主

また、イエスは人々の前で明確にご自分が救い主であると言われました。何のためにこの世に来られたのか？ヨハネ12：47に「だれかが、わたしの言うことを聞いてそれを守らなくても、わたしはその人をさばきません。わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来たからです。」とあります。このように人々の前で繰り返してご自分がこの世にお見えになった目的を話されました。ですから、イエスは黙っておられたではありません。イエスはことばをもって、行ないをもって、ご自分が待望の救世主であり、人となられた神であることを明らかにしたのです。そして、人々はそのメッセージを理解したのです。それでいながら、彼らはこの神、この救い主を受け入れなかった、その不信仰のことです。

2) 正しい選択：信仰

ですから、パウロは言います。「その不信仰を続けなければあなたたちはこの祝福に与る。だから、間違った選択ではなくて正しい選択をしなさい。不信仰にならず、信じる者になりなさい。」と。この「不信仰を続けなければ」とは、言い方を変える「罪に留まり続けなければ…」と、そのように言うことができるのですが、パウロはここで「罪を犯さない人になれば神はあなたを救ってくれる。」とは言っていません。「あなたがこれから先、一つも罪も犯さなければあなたを救いますと、神はそうに言われる。」とはパウロは言っていません。もし、それが条件なら、私たちのだれ一人として、この救いに与ることはできません。

パウロは「不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。」、罪に留まり続けなければ…と言ったのです。つまり、不信仰を続ける、罪を犯し続けるというのは、実は、救われていない人の特徴だからです。イエスを信じていない人、救われていない人たちの特徴は、罪を継続的に習慣的に行ない続けている人たちです。それがその人の特徴であり、その人たちの生き方です。いつまで経っても、神に対する不信仰の罪を悔い改めようとしません。

人々はなぜ、自らの罪を神の前に悔い改めようとしませんか？人々はなぜ、罪の赦しを得るために罪を悔い改めて救いを求めないのでしょうか？不思議です。こんなにすばらしい救いがあること、赦しがあることを聞いても信じようとしません。その原因は、人間は本質的に自分の罪を愛しているからです。そこに問題があるのです。神よりも自分の罪を愛しているのです。罪に従って、その罪のままに生きていくこと、好きなように生きていくこと、それが自分自身の希望なのです。それ故に、いつまで経っても、神の前に救いを求めて出て来ようとしません。救われる前の状態について、パウロはエペソ人への手紙の2章でこのように教えています。

【救われる前の生き方】 エペソ2：2－3

2節「そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従ひ、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従つて、歩んでいました。」、見ていただきたいのは、ここに出て来る二つの動詞です。「歩んでいました。」と「働いている」です。

- ・ 歩んでいました＝これは過去のことです。かつての私はそのように歩んでいた、今の私とは違うと言います。かつての私は「罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の權威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。」、つまり、自分の罪を愛し、サタンの子どもとして、サタンが喜ぶことを平気で行ない続けて来たと言うのです。
- ・ 働いている＝これは現在のことです。サタンは今も変わらず働き続けているからです。かつての私はサタンの奴隷、しもべとして生きていた。サタンを喜ばせること、罪を犯して神に逆らい続けるという、それが私の歩みだったが、それはもう私の過去のことだと言います。

3節「私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあつて、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」、ここにも三つの動詞が出て来ます。

- ・ 生きる＝これも今のことではなくて過去のことです。かつての私は「自分の肉の欲の中に生き」ていたが、今は違うと言うのです。
そして、パウロはその当時の生き方を、二つの動詞を用いてより具体的に説明します。
- ・ 肉と心の望むままを行ない＝継続してこのように生きていた、それが特徴だった者から新しい者へと生まれ変わったと言います。そして、
- ・ 生まれながらに御怒りを受けるべき子らでした＝そのような者だったと言っているのです。

ですから、この2箇所のみことばを見ると、救われる前の自分、神に逆らっているときの自分はどのような者だったのか、その状態は神の前に不信仰の生き方を継続して歩み続けていた、その様子が明らかです。神の前に悔い改めて出て来ようとしないう、自分の罪に導かれるままに、自分の肉の欲するままに生き続けていこうとする、それがイエスを知らない、救われていない人たちの特徴なのです。

[救い]

そのことを言ったパウロは、もし、あなたがその不信仰を続けなければ、かつてのようにその不信仰の中を歩み続けていくという生き方から離れようとするなら、そのような不信仰を捨てて、主イエス・キリストを信じ受け入れるなら、そこに「救い」があると言うのです。ですから、23節でパウロ自身が言っていることは、自分の罪を悔い改めてイエス・キリストを救い主として信じるという信仰のことです。これは後にも出て来ますが、聖書を見たとき「救い」は一つです。ユダヤ人の救いと異邦人の救いが違うのではありません。みな信仰によって救われます。ただ事実を認めるということではありません。イエスが神であり救い主であるという事実を認めるだけではないのです。私たちは自らの罪に気付いて、その罪に対して背を向けて、そのような生き方から離れて、神が喜ばれる生き方、この方を受け入れてこの方に従って行く生き方をするのです。悔い改めです。まさに、パウロが命じていることです。「もしあなたが不信仰を続けなければ、もしあなたがそのような罪を悔い改めて、この救いを受け入れるなら…」と、そのように言うのです。その時に、神は再びあなたをつぎ合わすことができると。もちろん、ここで「彼らを再び」とあり、これはイスラエル人のことです。彼らを「つぎ合わすことができるのです。」と。

「彼らを再びつぎ合わすことができるのです。」とは、神の力を教えているように思いませんか？神にはそれができ、神の御力を表わしているように見えますが、パウロはそのようなことは知っているのです。神は全能ですから、全能とは不可能なことがないのです。どんなことでもできるのです。では、パウロはここで何を言わんとしたのでしょうか？文脈を見たときに、パウロがここで教え続けていることは、「神は私の同胞であるイスラエルを再びあわれまれる。彼らをお救いになる。」ということ。ですから、23節でパウロが言わんとしていることは、神はこのイスラエルを再びご自分の許へと導かれる、その用意があるということです。神はそのような計画を持っておられる、それがパウロの希望だったのです。現状を見てみると悲しいけれど、しかし、神は必ず私の同胞を再び神の許へと導いてくださる、その約束がある、神はイスラエルを永遠に切り捨ててはおられないのです。

B. 神の選び 24節

実は、そのことが24節に出て来ます。ここには「神の選び」が記されています。「もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につがれたのであれば、これらの栽培種のは、もっとたやすく自分の台木につがれるはずです。」と、異邦人とイスラエル人のことです。パウロは、人間的に言えば、救われることが非常に困難だと思える異邦人をも神はお救いになった、それなら、あなたたちをお救いになることは容易いことだと言うのです。ですから、24節の最後に「もっとたやすく自分の台木につがれるはずです。」とあります。

これは確かに、異邦人に対するメッセージです。というのは、もうすでに見て来たように、異邦人に問題がありました。プライドです。自分たちはこうしてイエス・キリストによって救われているが、イ

イスラエル人たちはこの主を拒んでいると、彼らを見下すことがあったのです。だから、パウロは警告しました（このことは後でまた見ます）。ですから、この24節のパウロのことばを聞くときに、私たち異邦人は、私たちに与えられているこの救いが本当に100%神の恵みであり、そして、その恵みをいただく資格のない者にこのように神があわれみをくださったということを覚えるのです。私たちはだれ一人としてイスラエルをさばくことはできないのです。彼らを見下すことはできないのです。すべて、神がなされたみわざなのです。あなたがこうして今救いを喜んでいることも実はそうなのです。そのことも私たちは後で見ます。

信仰者の皆さん、パウロは希望を持っていました。このイスラエルが再び神のところに立ち帰るという希望でした。その希望は神のみことばがもたらしたものでした。私たちも今信仰者として生活していて、ときに希望を失うことがあります。最初に話したように、伝道してもなかなか家族は救われないと、多くの皆さんがそのことを経験されています。ある人は何年も何十年も福音を語り続けても、愛する者たちは心を開かない。でも、希望を失いそうになっても私たちは希望を持つことができます。

使徒の働き16：31に「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」とあります。もちろん、これは私が信じたなら家族のすべてが自動的に救われるという約束ではないことを私たちは知っています。ただ、あなたが信仰をもったことによって、神はあなたを通して、ご自身の栄光を家族にも周りの人々にも明らかにされるのです。私たちは希望を持てるのです。神は私を救うことによって私の家族に働きを始めてくださるのです。少なくとも、その希望を持って私たちは生きることができます。神のみこころは最善です。私たちは愛するすべての者が救われることを望んでいます。どのようになっていくのか？それはすべてをご存じである神に任せることですが、少なくとも、私たちは希望をもって愛する者たちがみな救いに与ることを期待しながら歩み続けていくことができます。信仰者として私たちは歩み続けていくことができます。パウロがそうであったように。

C. 救いの恵み 25-27節

1. 奥義：ぜひ、この奥義を知っていただきたい

25-27節を見ると、パウロはここで救いの恵みについてまた語っています。25節「兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。」、「奥義」ということばが出て来ました。パウロは「奥義をぜひ知っていただきたい。奥義を深く心に留めて欲しい、深く考慮して欲しい。」と言うのです。

1) 奥義とは？

では、「奥義」とはいったい何でしょう？キリストを通して人類を救う神の計画、昔は隠されていたが、今は啓示により人類に明らかにされている救いの奥義です。こういうことです。今、私たちは人種に関係なく、民族に関係なく、イエス・キリストを信じる信仰によって一つとされています。そこにはユダヤ人も異邦人も一つとなっています。みことばを見ましょう。ローマ16：25-26「私の福音とイエス・キリストの宣教によって、すなわち、世々にわたって長い間隠されていたが、今や現わされて、永遠の神の命令に従い、預言者たちの書によって、信仰の従順に導くためにあらゆる国の人々に知らされた奥義の啓示によって、あなたがたを堅く立たせることができる方。」、エペソ3：5-7「この奥義は、今は、御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されていますが、前の時代には、今と同じようには人々に知らされていませんでした。：6 その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。：7 私は、神の力の働きにより、自分に与えられた神の恵みの賜物によって、この福音に仕える者とされました。」

教会を見ると、そこには様々な人種がいます。もちろん、日本には少ないですが、いろいろな教会に行くと、そこにはユダヤ人や異邦人など、いろいろな人種の人たちが集まっています。みなイエス・キリストを信じる信仰によって一つにされています。これは旧約の人たちが知らなかったことです。だから奥義なのです。ミステリーです。旧約では明らかにされていなかったのです。旧約の人たちが知らなかったこと、それが今私たちの前に明らかにされているのです。旧約の人たちは教会が誕生することも知りませんでした。ミステリーなのです。

2) 奥義を知らせる理由

さて、この「奥義」、これをパウロはなぜ人々に知ってもらいたいと願ったのでしょうか？25節の次の部分に理由が書かれています。「それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思えないようにするためです。」、「賢い」とは「理解力が鋭い、物分りが良い、分別がある」という意味があることばが使われています。つまり、パウロの警告は「私が賢いからこの救いを理解出来た。私に分別があるからこのすばらしい救いを受け入れることができたのだ。」と、そのようなことがあってはならないということです。神の助けがなければ、どんなにIQが高くても救われることはないのです。Iコリント1：21の

初めには「事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。」とあります。つまり、パウロは「この世の知恵によって、人間の知恵によって神を知ることがあり得ない、それは不可能だ。」と言うのです。というのは、神の備えられた救いは次のようなものだからです。

◎神の備えられた救い

(1) 行ないによらない：この世の知恵によって神を知ることが絶対にならない

今見て来たように「知恵があるから神は人を救うのか」、そうではないと言います。もし、そうならその人は自分の知恵を誇ります。「私の知恵が私を救ったのだ。」と言います。今見ている I コリント 1 : 26 から見てください。「兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらんください。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。」、ここに三種類の人たちが上がっています。「知者」、「権力者」、「身分の高い者」。

知者=これはギリシャの知識人、哲学者のことです。ところが、パウロは「知者」の前に「この世の」ということばを付けています。つまり、パウロが言うことは、「知者」と呼ばれるのは「この世の」人々からであって、神からではないということです。この世が「この人たちは知者だ」と言うのです。

権力者=政治的な力をもっている人のことです。

身分の高い者=貴族階級の人たちです。

つまり、パウロはこのような三者をあげることによって、その当時の社会において重要とされているすべての人を網羅したのです。そして、その上でパウロは「このような人々であっても救いが保証されていたのではない。」ということを示したのです。なぜなら、救いは神が一方的にご自身のあわれみと恵みによって人を救いへと選ばれるからです。この救いにおいて、人間の功績や手柄は全く関係がありません。なぜでしょう？誇らないためです。自分の行ないによって救いを得るとするならば、私たちは確実に、自分の行ない、自分の努力を誇るからです。先の続き、I コリント 1 : 27-29 を見てください。「:27 しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。:28 また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものがない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。:29 これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。」。

ですから、パウロは「神の備えられた救いは行ないによるものではない。この世の知恵でもって神を知ることが絶対にならない。」と言うのです。「これだけ知恵を蓄えたから神を知ることができる。」などともないことだと言うのです。

(2) 福音を信じる信仰による：宣教のことばの愚かさを通して

I コリント 1 : 21 の後半をみてください。「それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。」とあります。「宣教のことばの愚かさを通して」とはいったいどういうことでしょうか？「宣教のことば」とは、確かに、辞書では「布告、説教」と訳しています。しかし、ここで言われていることは「語られるメッセージ」のことではないのです。パウロが強調しているのは「メッセージの内容」です。なぜなら、このメッセージによって「神を知る」ことになるからです。このメッセージはそのような結果をもたらすのです。ですから、だれかが語っていることではなく、どのような内容を語っているのかということです。その内容によって人々は救いに与ることができるからです。つまり、それは「福音のメッセージ、救いのメッセージ」です。先ほどの続き、I コリント 1 : 23-24 に「しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでしょうが、:24 しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。」とある通りです。I コリント 15 : 2-4 にパウロはこのように言っています。「:2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。:3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、:4 また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、」。

メッセージの内容に関して

・愚かである：宣べ伝えるメッセージの内容が「愚か」とであるとパウロ

1 : 21 をもう一度見てください。「宣教のことばの愚かさを通して」とは語るメッセージの内容のことだと分かりました。救いのメッセージを語るということです。それでいながら、パウロは「ことばの愚かさを通して」と言います。福音のメッセージのどこが愚かなのでしょうか？福音のメッセージはすばらしい神からのメッセージです。なぜ、この福音のメッセージの愚かさを通してなのでしょう？なぜ、パ

ウロはそのように言ったのでしょうか？パウロ自身はその福音のメッセージが愚かであると言っているのではありません。あなたがこの福音のメッセージを語ったとき、そのメッセージを聞いている人たちがそのように言うということです。福音のメッセージを聞いた多くの人たちのだれかが「すばらしいメッセージです。私は待ち望んでいました。」と言うことは非常に少ないのです。そのような方に出会った経験はほとんどありません。大抵の皆さんは何も言いません。正直な方は「そんな単純なメッセージでどのようにして人が救われるのですか？ただ信じるだけで…？そんなことはばかげています。救いを得るためにはもっと努力をしなければいけないでしょう！」と、そのように言われたことはありませんか？「主イエス・キリストを信じる信仰によって救われる」というメッセージを聞いた人たちは「非常に愚かな話だ。魅力的でない。」と言います。パウロはそのことを言っているのです。行ないによって救いを得ることはできません。信仰によって得ることができます。でも、その信仰をもたらす福音のメッセージに対して、人々はそれは「愚かだ」と言うのです。

(3) 神の恵みによる : 「定められたのです」

ところが、Iコリント1:21の後半を見てください。すごいことが記されています。「信じる者を救おうと定められたのです。」とあります。パウロは言います。「神が備えた救いのメッセージは神の恵みによるものだ。」と。行ないではなく信仰による。そして、神の恵みによると言います。この「定められた」ということば、これは動詞ですが、この意味は「喜びとする、意に適う、よしとされた」です。新改訳聖書ではこれを「定められた」と訳したのです。

しかしパウロがここで言いたかったのは、この福音のメッセージを聞いた多くの救われていない人々にとって、このメッセージは愚かとしか思えないけれども、しかし、この福音のメッセージで神は罪人を救うことを良しとしたということです。神はこのメッセージで良いと言うのです。神はこのメッセージを喜ばれているのです。この福音のメッセージによって、罪人は救われるのです。人々は認めないでしょう。人々はバカにするでしょう。でも、救ってくださる神ご自身が「これで良い。」と、そのように言われた、そのことをパウロはここに記したのです。

信仰者の皆さん、勇気が出て来ませんか？あなたが語っておられる福音のメッセージは、イエスを知らない人々の間ではポピュラーではありません。人気がありません。でも、神が承認されたメッセージなのです。神があなたに託した救いのメッセージなのです。人を救うためにはこれ以外のメッセージはないのです。パウロはそのことをここで言うのです。だから、彼はどんな所でもこのキリストのメッセージを語り続けたのです。これしか人が救われる道は他にないからです。

3) ここでパウロが教える「奥義」とは？

もう一度今日のテキストに戻って、パウロは「奥義」について私たちに説明してくれました。なぜ、奥義を知ってもらいたいとしたのでしょうか？あなたが自分の知恵を誇ることがないように、なぜなら、これはすべて神からの贈り物だからです。特に、11章で語られている「奥義」に関して、パウロは三つのことを教えています。

(1) イスラエル人の一部がかたくなになる 25b節

イスラエル人はこのことを知らなかったのです。隠されていたのです。そのことを今一度パウロは明らかにしました。25節の後半を見てください。「その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは…」とあります。神はそのことを定めておられたと言うのです。この「かたくな」というのは「心がかたくなな状態にある」ということです。心のことです。

(2) イスラエル人のかたくなさには終わりがある

25節に「異邦人の完成のなる時までであり、」と続きます。イスラエルのかたくなさは終わるときがあるのです。ずっと永遠にかたくなであり続けることはないのです。それは「異邦人の完成のなる時まで」と記されています。パウロは非常に興味深いことを言わんとしています。

「完成」：「数の揃っている状態、すべての数が揃っている状態」のことです。

「なる時」：「ある状態に入ること」を意味します。実は、このことばは聖書に184節、194回出て来ます。

→「天、神の御国に入る」：この中のある箇所では「天、神の御国に入る」というように使われています。その聖書の箇所は、マタイ5:20、18:3、19:23、24、マルコ9:47、10:23-25、ヨハネ3:5、使徒14:22です。

「永遠のいのちに入る」：このようにも使われています。マタイ19:17、マルコ9:43、45ですから、このように見ると「なる時」というのは「天の御国に入る」、「永遠のいのちに入る」、つまり、救いに関しても使われるのです。

そうすると、今、パウロがこの25節の後半で言わんとしたことが見えて来ます。「イスラエル人の一部

がかたくなに」になっているが、これは異邦人の完成、つまり、異邦人のすべての人たち、選ばれたすべての人たちの完成のなるとき、救いに至るその時まで、イスラエル人の一部はかたくなにされたというのです。

ということは、神が選ばれた最後の異邦人が救われたなら、神は異邦人から今度はイスラエルに働きを始められるのです。つまり、パウロがこの25節の後半で言っていることは、神は異邦人の中で救われる者たちの数を決めておられるということです。なぜなら、「最後の人が救われたら」だからです。救いは神が私たちに託して下さるもの、与えて下さるものです。神はあなたを選んでくださった、神はちゃんと数を決めておられるのです。そして、最後の人が救われたときに、イスラエルの人々の心は変えられていくのです。

少なくとも、この事実が私たちに教えることは、今私たちに与えられている異邦人の救いはいつまでもあるということはないということです。イエス・キリストを信じる信仰によって救われる、この恵みの時はいつまでも続くのではないのです。終わりを迎えるときがやって来ると言うのです。最後の人が救われたら…。この教会の中にその最後の人がいるかもしれません。その人が救われることによって、今度は神はイスラエルの民に対して働きを始められるのです。ですから、もしイエスを信じていない人がいるなら考えなければいけないことがあります。あなたの心はあなたに「信仰を持つのはもっと先に延ばしましょう。」と言うかもしれません。でも、明日があることをどのように保証できますか？

「最後の人が救われたら終わりだ」と言われているのです。神が私たちに警告することは、その救いがあるうちに、救いのチャンスがあるときにこの救いに与ることです。

(3) イスラエルは救われる 26a節

26節の初めに「こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。」とあります。

・**みな救われる**：結論から言うと、これはイスラエル人のすべての人々が、全イスラエル人が救われるということではありません。ここで「イスラエルはみな救われる」と記されているので、これは「イスラエル人すべてを指している」と私たちは見るのですが、実は、「イスラエルはみな」とか「全イスラエル」という慣用句は旧約聖書の中に100回以上出て来ます。いろいろな意味があるのです。その中に「全イスラエルを代表するある人々」に対して用いられているケースもあるのです。ですから、「全イスラエル」が一人ひとりのすべてのイスラエルとは取らないで、「その中の代表」という意味で使われているに過ぎないのです。

ですから、「イスラエルはみな救われる」とはすべてのイスラエル人が救いに与るということを約束しているのではないのです。異邦人の場合と同じように、神が選ばれた者たちがいるのです。神の約束は神が選んでおられるイスラエル人を救うというものです。それはいつのことでしょう？

2. 救いの預言 26b—27節

26節の後半部分から見てください。「こう書かれているとおりです。『救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。』」：27 これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。』」、これはイザヤ書59：20—21からの引用です。「しかし、シオンには贖い主として来る。ヤコブの中のそむきの罪を悔い改める者のところに来る。」——主の御告げ。——：21 「これは、彼らと結ぶわたしの契約である。」と主は仰せられる。「あなたの上にあるわたしの霊、わたしがあなたの口に置いたわたしのことばは、あなたの口からも、あなたの子孫の口からも、すえのすえの口からも、今よりとこしえに離れない。」と主は仰せられる。」。二つのことばを見ます。

1) 「救う者」：キリストのことです。救世主のことです。この救世主が人々に救いをもたらすということ。Iテサロニケ1：10に「また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちに救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。」とある通りです。

2) 「シオンから出て」：イザヤ書59：20のみことばを見ると、「シオンには贖い主として来る。」とあります。ところが、パウロが引用しているこの箇所は『救う者がシオンから出て』と記されています。ですから、ある者たちはパウロは正しい引用をしていないと言います。私たちが考えなければいけないことは、この「シオン」ということばの意味です。

「シオン」とは旧約聖書の中では「エルサレム」であったり「その住民」を指す名称として使われています。また、神殿のあった丘をこのように呼んでいました。ですから確かに、イザヤの預言は「救世主がシオンに、エルサレムに来る」と言います。その救世主が来たことをパウロはもう知っているのです。しかし、パウロは同時に、神の後の計画を知っているのです。その計画が「シオンから救世主が来る」ということです。これは何のことでしょう？パウロは再臨のときに起こるイスラエルの最後の贖いのことを言っているのです。というのは、この「シオン」とはそのような意味があるのですが、ヘブル

書 12 : 22にはこのように書かれています。「しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。」と。「天にあるエルサレム」とは「シオン」のことです。

ですから、パウロが知っていたことは、もうすでにこの世にお見えになった救世主が、後には、その天にあるエルサレム、すなわち、天から来られるということです。何のためですか？イスラエルを救うためにです。パウロはこの救い主の再臨のときに、それが起こることを知っています。救い主の再臨のときに、イエスを信じている異邦人たち、教会は神のもとに引き上げられます。そして、イスラエルに神のみわざが成されるのです。多くのイスラエル人たちがこの救いへと導かれるのです。だから、それを知っていたパウロは「シオンから救い主がこのイスラエルに来られる。」と、そのことを預言したのです。

このように、私たちはみことばを見て行く時に、すべてのことは神の御手のうちにあることが分かります。イスラエルの不信仰も、それゆえに、異邦人である私たちに救いが及んだことも、そしてまた、神がこのイスラエルをあわれまれることも、すべて、神のご計画のうちにあるのです。このような神に信頼を置いて生きることができることは、何とすばらしいことでしょうか？知恵において私たちの理解を遥かに超えた方です。この方に任せて生きることができるのです。この方はご自分の完全な知恵をもってあなたを導いてくださるのです。私たちが信頼を置くことのできる偉大な方です。このような方だから、私たちは希望をもって生きることができます。私たちはこの方にすべてをゆだねて、すべて任せて、そして、私たちに託されている責任を神の恵みをいただきながら、しっかりと果たしていくことです。

いろいろなことが周りに起こります。悲しむことや、辛いことや、私たちから希望を奪っていくような出来事が起こって来ます。しかし、私たちがすべてを支配しておられる主を見上げるときに、一切のことをこの方にゆだねて、神が今日を私に与えてくださった、この方のためにしっかり生きよう、この方の栄光のために生きて行こう、この方を信じないのではなくて、疑うのではなくて、信頼を置いて従って行こうと、それが神があなたに望んでおられることです。どんな時にも神に信頼を置いて、この方に従い続けて行くことです。

こんな偉大な神が私たちを用いてくださるのです。すばらしい祝福に私たちは与っています。どうぞ、この一週間用いていただくように、自らを主におゆだねして、そして、みことばに従いながら歩んでください。神はあなたを通してご自身の栄光を現わしてくださいませ。そのような働き人として今週も用いられることを願いながら、今日から歩んで行きましょう。

《考えましょう》

1. 私たち信仰者が希望を持って生きるためにはどうすれば良いのでしょうか？
2. どうして人間の知恵によって救いを得ることができないのでしょうか？
3. 未信者が福音のメッセージを「愚か」だと思えるのはどうしてでしょうか？
4. I コリント 1 : 21 の「定められた」とはどういう意味でしたか？
5. 神の備えてくださった救いを得るためには、何をすればいいのか説明してください。